

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>

春たけなわ

アメリカのグランマー・モーゼスの回顧画に倣い、70年も前の尋常小学校を懐かしみ描いた。

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

目次

学事の計は春に在り	石川 三佐男	2 ~ 3
開館時間の変更について / 本学教員等著作寄贈図書		3
シリーズ 心に残る一冊 (31)	菅原 征洋	4
シリーズ 心に残る一冊 (32)	工藤 由紀子	5
シリーズ 心に残る一冊 (33)	篠原 秀一	6
新入生の皆さんへ 図書館活用の勧め (先輩の声)		7
図書館員のひとりごと		8
電子ジャーナルの購入・利用状況と今後の課題		9
秋田地区大学等連絡協議会開催		10
医学部分館コーナー		11
図書館カレンダー / 編集後記		12

学事の計は春に在り

附属図書館長 石川 三佐男



北国の記録的降雪の時を経て今年も春の季節が巡ってきた。4月、人々は万物とともにみな清新の気を蘇らせている。日本においては学事の計は春に在りとする伝統がある。秋田大学の学事は年度計画に沿って一斉に動き出した。附属図書館も利用者の利便を第一に、新たな気分で機能を全開させていこうとしている(以下は時節柄、別の機会に述べた内容と一部重複することを断っておきたい)。

「春華秋実」の楽しみを得よ

「春華秋実」(春の華と秋の実り)は私の好きな言葉の一つである。同僚の長沼雅彦教授に揮毫してもらって図書館長室にも掲げてある。この言葉は中国の古典『顔氏家訓』勉学篇に見える。「学問は樹木を植え育てるようなものである。春にはその華をめで秋にはその実りを収穫する。文章のあり方を説いたり論ずることは春の華である。身を修め徳にかなった行いをするのは秋の実りである」。つまり春の華と秋の実りは優れた学業とそれに裏打ちされた徳行を喩えている。ただし南宋の朱熹が「少年易老学難成」(少年老い易く学成り難し)と詠っているように、「春華秋実」の楽しみを得ることはそう簡単ではない。

経験的に言えば、その楽しみを得る手だては「佳き友」「佳き書物」「佳き指導者」との出会いに懸かっている。自ら学び、自ら考え、自ら探求する姿勢を堅持する限り、その機会は誰にも必ず訪れる。附属図書館はその支援にいっそう努めよう。若い皆さんは日々附属図書館を活用し、課題の克服を図り、「春華秋実」の楽しみを存分に得てほしい。

「學貴日新」の厳しい教え

「學貴日新」(学は日に新たなるを貴しとす)の言葉は附属図書館の内藤湖南コーナーに扁額作品として飾られている(次頁写真参照)。すでに多くの皆

さんが眼に止めていることだろう。

この作品は京都大学中国史研究の指導者的立場となり、東洋史学の創始者として令名が高かった内藤湖南博士(1866年~1934年)が晩年に当たる1930年(昭和5年)、自身の母校である秋田県師範学校(本学教育文化学部の前身校)の保野野校舎新築落成記念として同校に寄贈されたものである。以来多くの学生や教職員の教育指標として仰がれ、戦中戦後の困難期をはさんで、時には掲額場所や所蔵場所を移しつつ現在に至っている。

「學貴日新」の言葉は学問を深めるためには新たな真理に向かう厳しい姿勢を日々堅持することが大切であると説いている。しかもこの言葉は『論語』為政篇の「温故知新」(故きを温ねて新しきを知る)、『揚子法言』李軌注の「徳貴日新」(徳は日に新たなるを貴しとす)、『礼記』大学篇の「苟日新、日日新、又日新」(まことに日に新たなれば、日々に新たに、また日に新たなり)、『荀子』勸学篇の「学不可以已」(学は以てやむべからず)等の教えとも通じる、普遍的な力をもった言葉である。それだけに「學貴日新」の言葉は、言うは易く実行することは難しい。この教訓を体得し実践するためには自己に克つ揺るぎない精神力が必要である。内藤湖南の「學貴日新」の書は、稟とした肖像写真とともに、若い皆さんにいつもそのことを語りかけている。

附属図書館の自己点検と外部評価

平成17年度、附属図書館は平成4年度以来2度目の「自己点検・評価」を実施し、本年2月、報告書にまとめた。さらに附属図書館は本年2月、初の「外部評価」を受審した。詳細は二つの報告書に譲ることとするが、年度計画を実行していくに際し、高く評価された点はさらに充実させ、厳しく評価された点は改善を図っていくことを約束しておきたい。

「東洋の巨星・内藤湖南を語る」公開講演

本年5月19日(金)20日(土)の両日、秋田市内で全国漢文教育学会第22回(通算52回)大会が開催される。第2日目は秋田大学教育文化学部を会場に「東洋の巨星・内藤湖南を語る」公開講演が行われる。講師は礪波護^{と なみ まもる}氏(京都大学名誉教授・大谷大学教授)と寺田隆信氏(東北大学名誉教授・前いわき明星大学長・鹿角市先人顕彰館名誉館長)。聴講は無料

(問合先は教育文化学部・石川三佐男)。当日は秋田の人々にとって湖南の学問や人となりに触れる貴重な機会となる。附属図書館の内藤湖南コーナーには内藤湖南の全集や貴重書も揃えてある。そこでこの機会に、新入生、在学生、教職員、一般の皆さんには会場に足を運び、秋田が生んだ東洋の巨星・内藤湖南をもっと身近に知ってほしいと願っている。

(いしかわ みさお 教育文化学部 日本・アジア文化講座 教授)



図書館(本館)
ブラウジングコーナーの一角に
内藤湖南コーナーがあります。

開館時間の変更について

2006年4月1日より

平日 8:30 ~ 21:00

土・日・祝日 10:00 ~ 17:00

長期休業期間

平日 8:30 ~ 17:00

土・日・祝日 休館

となります。

- ・詳細は開館カレンダー(p.12)をご覧ください。
- ・カウンターではミニカレンダーを配布しています。
- ・都合により臨時休館や開館時間の変更があった場合は図書館ホームページでお知らせいたします

この開館時間の変更は1年間の試行として実施します。

本学教員等著作寄贈図書(平成17年9月~平成18年1月受入れ)

本学教員が著し、寄贈されたものです。ありがとうございます。

請求記号	書名	著者名(敬称略)	出版社	出版年
WL108 N85o 2006 (分館)	The orexin/hypocretin system	神林崇分担執筆	Humana Press	2006

* 図書館では本学教員の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いいたします。



『しろばんば』

井上靖著
新潮文庫



菅原 征洋

本は人の心の鏡のような気がする。人によって個人差はあると思うが、少年期、青年期、壮年期などによって心に抱く様々な想いがあり、これは、加齢によって変化していくことは私の経験から確かなようである。埃をかぶっているが、捨てないでいる本を眺めてみると、心の移り変わりが鮮明に回顧できる。そのなかで、確か50歳代に読んだと思われる井上靖の「しろばんば」を手にとって、当時心に抱いていた想いを巡らした。

以前、久しぶりに少年期を過ごした小さな山あいの故郷へ立ち寄って見た。町並みは、立ち並ぶ家々が新しい他は昔の面影を残していた。足は自然と町はずれにある川に向かった。海のない町では、水遊びは必然的に川になる。あんなにも広く深い川で、ときには溺れかかった筈の川が、どうしてこんなにも狭く、しかも浅くなってしまったのだろうかと思議な思いを抱きながら中学校へ向かった。少年期の感覚で、中学校は自宅から大変遠くにあったため、JR(当時国鉄)の鉄橋を渡って、よく近道をしたものだ。これは校則で禁じられていた。あるとき鉄橋の中央にさしかかったとき、SL列車が突然現れ汽笛がけたたましく鳴った。必死の思いで狭い渡り板を駆け、引き返した怖い経験もした。しかしながら中学校までは大変近い道のりであり、当時なぜ

あんなにも遠く感じたのだろうと思議であり、その後、この奇妙な体験が頭から離れなかった。

その後、井上靖原作のシルクロードを舞台にした「敦煌」という映画を観賞した。面白かったので原作を読んだ。映画よりも迫力があり、非凡な表現力に吸いこまれていった。これをきっかけに、井上靖の小説に関心が高まり、「しろばんば」に出会った。これは井上靖が55歳のときに発表した自伝的小説であり、血縁のないおばあさんと伊豆の田舎で、いろいろな経験をして成長していく洪作少年の話である。これを読んでいくと、所々に以前、私が故郷で体験した思議な想いを洪作少年、いや井上靖も体験していることに共感をおぼえた。井上靖も私と同じく少年時代を過ごした田舎に立ち寄って、山、川、懐かしい純朴な顔に出会って何かを感じ取って、偉大な作家の筆を走らせたのだろうか。喧騒な昨今にあって、ふと目を閉じて過去を振り返って、多感な少年時代の故郷の映像を臉のうらに映し出すとき、心の安らぎを感じるのは私だけであろうか。

続編の「夏草冬涛・上下」も興味をそそる。ときには、パソコンのディスプレイから離れて井上靖の世界に入ってみても時間の浪費にはならないと思う。

(すがわら まさひろ 工学資源学部 機械工学科 機械ダイナミクス講座 教授)

この作品は 918.6::Sh61::v.28 (開架図書1F) 新潮現代文学28井上靖に収録されています



『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』



平木典子著
金子書房 2000

工藤 由紀子

学生のみなさんは普段、両親や友人、同級生、サークル仲間、バイト先の仲間たちに接する時、どのような自己表現の仕方をしているか考えたことがありますか？また対人関係につまずいたり、ストレスが溜まっている方はいませんか？

今回は『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』をご紹介します。アサーションとは「適切な自己表現」「自分も相手も大切にしたい自己表現」の意味で用いられています。（原語は【名】assertion：主張、断言、表明、断定、主張。リーダーズ英和辞典，第2版，研究社より）

以下に示した2つのタイプのうち、自分があてはまると思うものはありますか？

不十分な自己表現

- ・友人や先輩の長い話を切り上げたいのに切り出すことができない。
- ・ダイエット中なのに、バイト先の上司からお菓子をすすめられ、断ることができない。
- ・トイレの列に並んでいて横から割り込まれそうになった時、自分の番なのにも思いつつも、黙って順番を譲ってしまう。

過剰な自己表現

- ・グループワークで他人の意見を受け入れず、周りを自分の意見に染めてしまう。
- ・友人を食事に誘って断られた時、「たまにはいい

じゃない」と強引に誘ったりする。

- ・トイレの列に並んでいて横から割り込まれそうになった時、むかついたので黙って強引に割り込み返す。

の不十分な自己表現は「非主張的な自己表現」とも言われ、自分を抑え相手を立てているつもりかもしれませんが、実は自分に不正直であったり、相手に率直でない自己表現をしている可能性があるそうです。

の過剰な自己表現は「攻撃的な自己表現」とも言われ、特徴として自分本位で他者否定的、操作的、支配的、一方的であることが挙げられています。他者の存在や言動、気持ちに無頓着で、尊大な態度をとって自分を優位に保とうとするタイプで、相手を尊重しないため人間関係も長続きしないのだそうです。

学生時代に人間関係の悩みはつきもの。上記のタイプにあてはまる方、また人間関係が上手くいかないなどの悩みがある方は、この本を読んでみてはいかがでしょうか。なぜ上手くいかないのか、適切な自己表現とは何か、適切な自己表現を実行するためにはどうすればよいのか、についてのヒントが述べられています。人間関係で悩む前に、まずは自分というものを知ろうという発想の転換がキーワードです。とくに将来、教職や医療職に携わろうとしている方には役に立つ知見が得られるのではないのでしょうか。

（くどう ゆきこ 医学部保健学科 基礎看護学講座 助手）

この図書は医学部分館2F 開架（WM55:H64:2000）にあります。



『生物の世界』

今西錦司著
弘文堂 1941年



篠原 秀一

大学に入ってから様々な本を乱読した。図書館や書店で見かける難しそうな本も^{かじ}齧ってみた。無論、多くは消化不良にはなる。が、高校時代とは違う、自由な発想を多分野で冒険できるのが楽しかった。大学の先生方の授業も新入生の私には楽しく新鮮なものが多く、その中に嶋田厚先生の「情報文化論」という授業があった。ノートは取りづらいいけれども発想を多様に刺激してくれる授業で、毎時間、多様な分野の専門的入門書が紹介された。『生物の世界』はその中の一冊だったかも知れない。手元にある『生物の世界』（講談社文庫版）の最終頁には、1985年6月1日読了とのメモがあるので、入学間もなく挑戦したことになる。

この『生物の世界』が学術的にはどう位置付けられるのか、生物学専門家ではない私には今も不明である。しかし、私にとっては初読以来、実に多様に発想を刺激してくれる素敵な本である。「生物」の語句を「人間」に置き換えれば、「生物の世界」は

「人間の世界」に読める。

本の章題を構成する、相似と相異、構造、環境、社会、歴史は、私の専門分野である地理学でも基本的な重要概念である。地理学の「地域」概念は「相似と相異」を意識するし、現実世界の地理学的把握・認識と「地域構造」「環境論」「社会・歴史的背景」は密接に関係する。

文中にある...(前略)この構造機能の相即ということが、もはや単なる生物もしくは生体存立の原理にとどまることなくして、(中略)この世界は空間的即時間的な世界であるとともにまた構造的即時間的な世界であるといえるのである-- といった見解は、地理学でも十分に納得できる1つの世界観である。

この本は、『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎著、新潮社、1937年；現在は岩波文庫に所収）、『認識の風景』（沢田允茂著、岩波書店、1975年）とともに、私の憧れの哲学書である。

（しのはら しゅういち 教育文化学部 文化環境講座 助教授）

「生物の世界」は購入手続き中です。

上記で紹介された図書のうち「認識の風景」は本館開架図書1F（115!!Sa93）にあります。



新入生の皆さんへ

図書館活用の勧め
(先輩の声)

『図書館は自らを 高める場!!』

小野寺 智子

四月に入り、秋田大学は新入生を迎え、新しい幕を開ける季節になりました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから、大学生活という新たな環境で、皆さんは期待と不安とで胸が高鳴っていることと思います。ここで、少しでも多くの新入生、更には在学生の皆さんに図書館を積極的に活用して頂きたく、図書館について簡単ではありますが述べたいと思います。

レポートの提出、あるいはテスト対策には図書館を活用するかしないかで、その成果が左右されると言っても過言ではありません。大学の図書館は、学習の場としてあるだけでなく、各学部に対応した専門書が数多く保管されているため、皆さんが必要とする多くの情報を与えてくれる場でもあります。また新入生の皆さんはレポートの書き方で戸惑うこ

ともあるでしょう。図書館には、「レポートの書き方」などの基本書も所蔵されているので、それらを活用して頂ければレポート提出に大変役立つことと思います。また一階OPAC(蔵書検索)コーナー隣にはインターネット端末もあるので、時間をかけずに幅広く情報を得ることができます。

私自身、卒業に際し、“図書館をもっと活用しておけば良かった”と思うことがあります。それは、レポート提出時やテスト対策にだけでなく、“図書館は情報の宝庫”とも呼ばれているように、多くの情報を自らの知識へと変えることのできる場でもあるからなのです。少しでも興味のあること、そして克服したい苦手な分野がある時など、是非、積極的に図書館を利用してみてはいかがでしょうか。

また、利用者の希望が多かったという開館時間帯の延長を四月から実施することになったとのことです。分からない事や要望があれば、遠慮せず職員に尋ねたり、リクエストをするなどして、図書館を効果的に活用し、自らを高める場として利用して頂ければ幸いです。

(おのぞら ともこ 平成17年度 教育文化学部卒業生)



『先生・友達』

牟 陽

時は早いものですね。日本に来て、あっという間に2年以上経ってしまいました。人生の貴重な2年を秋田で過ごしました。そうした中で、一生忘れられないのは、私の指導教官渡部良典先生ほか、秋田大学の図書館だと思っています。

秋田大学の図書館は私にとって、まず先生であります。最初日本に来た時、日本語がほとんど通じませんでした。毎日研究室のほか、ほとんど図書館で勉強していました。国際交流コーナーには初級から上級までの数多くの日本語の本や辞書などが用意してあります。その上、ビデオやテープなど音声資料も豊富ですし、言葉の聞き取りにも大変役に立ちました。こうして、時間が経つに連れて私の日本語は徐々に上達して来ました。段々通じるようになって

来ました。少しの進歩でも、嬉しさや感動の気持ちで一杯です。

日本に慣れるまで、やはり寂しい時やホームシックの時がよくあり、その時もよく図書館に通っていました。国際交流コーナーには中国語の新聞や雑誌もありますから。それを読むと、まるで自国にいるように思えました。視聴覚室で音楽を聞いたり、英語と日本語映画を見たりして、勉強しながらリラックスも出来ますよ。インターネットにも随時アクセスでき、図書館にしながら世界の様々な情報を知ることが出来ます。特に図書館の職員の方々には親切に手助けしていただきました。

間もなく卒業なので、もう来られなくなるかもしれませんが。思い出すと、懐かしくもあり、寂しくもあります。

いずれにしても、秋大の図書館は私にとって、知識や、情報の源だけではなく心の安らぎの一隅でもあります。私にとって、一生の思い出になると思います。ありがたい気持ちで一杯です。

(ム ヤン 英語教育専修 修士2年留学生)

● 館員の **声** 図書館員のひとりごと

図書館に勤めるようになってから6年が経とうとしています。この間2度に渡り、産休を取ったにもかかわらず、今も仕事をさせて頂いています。一緒に仕事をしている職員の理解と協力をなくしては、続けることはできなかつたでしょう。

私は、図書情報系の遡及入力担当2人のうちの1人です。「遡及入力」とは、図書館業務が電算化される以前に受入した未入力資料の書誌・所蔵データを、蔵書目録データベースに入力することをいいます。図書館利用者が、資料の所在を確認する際、OPAC検索をするかと思います。この時、図書1冊1冊に付番された図書番号と、所在を見つけ出す指標となる分類がデータとして登録されていなければ、必要とするものにたどり着くことはできません。

ここで、図書館業務の中ではどちらかといえば裏方の作業にあたる「遡及入力」について少しお話ししたいと思います。まず、電算化される以前の登録待ちの図書がたくさん眠っている第2書庫3Fへ行きます。ブックトラックに図書を積み、事務室に運んで埃を払った後、天地(*1)に図書館印を押します。次に、データ入力し、日本十進分類法(NDC)を元に分類番号を、日本著者記号表を元に著者記号を決定していきます。そして、図書番号、請求記号(分類番号+

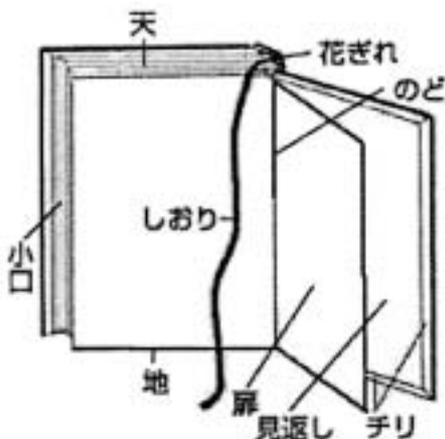
著者記号)それぞれのラベルを貼り、書庫へ戻して完了です。地道な作業の繰り返しですが、なぜか古い図書に対しても愛着が湧いてきます。私とは相性の良い仕事なのかもしれないと思いつつ、手を動かしている毎日です。

利用者の皆さんには、あるはずの図書が見当たらないかたり、保管場所が手狭で窮屈な感じを与えたりと、ご不便をかけている点が多々ありますが、1日も早くデータ入力が終わるよう努力したいと思います。また、使用頻度が多い為に傷みが激しいものや、経年により劣化の進んだものに関しては、補修を施していきます。そのため、3年前から国立公文書館のご好意により、講師として来て頂き、「図書修理の講習」も受けています。

図書館にある本が長く引き継がれる為に、利用者の方々にも図書にやさしい取り扱い(*2)をして頂く様、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、長い間、図書館に尽力くださった諸先輩方を手本に、細やかな気遣いができるようになることを目標とし、日々の仕事に打ち込んでいきたいと思ひます。

(*1)



(*2)

1. 水に濡らさない カビの原因
2. 火元に近づけない 焼失の原因
3. よごれを付着させない

(特に付箋紙を貼ったままにしない)

劣化の原因

電子ジャーナルの購入・利用状況と今後の課題

当館では2002年度からElsevier社のScience Direct (SD)やWiley社のInterscienceなど電子ジャーナルのパッケージ契約を導入し、その後Nature関連誌、Science、Oxford University Pressほか各出版社の電子ジャーナルも含めて、現在約2500誌を購読契約しています。(リストは当図書館ホームページの電子ジャーナルページ参照)

その経費は図書館外国雑誌購入費で対応していましたが、毎年の価格上昇や継続条件(冊子体の購入水準維持)により、図書館単独では電子ジャーナル契約維持が厳しい状況でした。

そのため電子ジャーナル購入予算は全学の共通経費として取り扱うという全国の大学図書館の趨勢に沿って大学当局へ要請した結果、平成18年度からの実

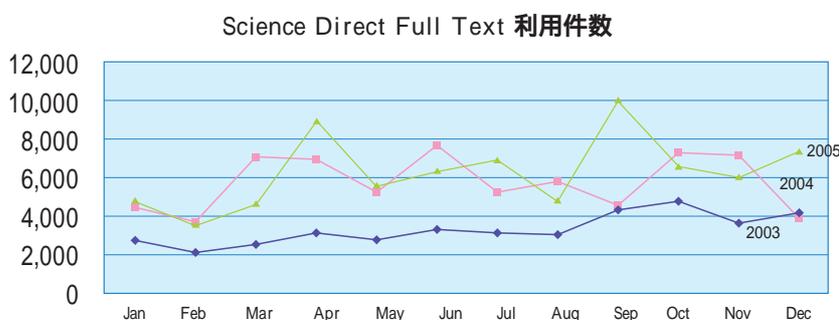
施が認められました。

利用状況については図書館のホームページや広報(図書館だより、Newsletter)でのPRで学内への周知、理解が得られるにつれ、医学系、工学系の情報の速報性が重視される分野では有名雑誌を中心に、フルテキストの利用数が高い状態が続いています。(SDについては下記のグラフやリスト参照)

今後は、雑誌購入についての見直しを図り、人文系電子ジャーナルやバックナンバーコレクションの導入、購入経費負担の公平化等の検討を行い、学内の理解と一層の利用を進めて行くことが課題になります。

電子ジャーナルの活用により、学内利用者の皆さんの学習、教育、研究が大いに成果を上げられますよう期待します。

SD full text利用件数	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Total
2003	2,733	2,034	2,523	3,132	2,708	3,300	3,107	3,004	4,415	4,710	3,627	4,119	39,412
2004	4,377	3,657	7,035	6,916	5,243	7,619	5,153	5,700	4,493	7,222	7,083	3,860	68,358
2005	4,762	3,552	4,618	8,888	5,538	6,342	6,869	4,770	10,018	6,541	5,974	7,316	75,188



よく利用されるタイトル (Science Direct 2005 Full-text article requests)

Lancet
 Fuel
 Biochemical and Biophysical Research Communications
 Journal of Magnetism and Magnetic Materials
 Thin Solid Films
 Applied Catalysis A: General
 Immunity
 Cell
 FEBS Letters
 Archives of Physical Medicine and Rehabilitation
 Annals of Thoracic Surgery, The
 Journal of Hepatology

Journal of Molecular Catalysis A: Chemical
 Solid State Ionics
 Journal of Biomechanics
 Materials Science and Engineering A
 Tetrahedron Letters
 Journal of Biotechnology
 Journal of the American College of Cardiology
 Journal of Immunological Methods
 Journal of Power Sources
 Microporous and Mesoporous Materials
 Tetrahedron
 Brain Research
 Chemosphere

平成17年度(第12回)秋田地区大学等連絡協議会開催

さる2月7日(火)当図書館会議室にて標記会議が、県内国公私立大学図書館12機関19名の参加で開催されました。



この協議会は秋田県内の大学等図書館間の学術情報交換と相互協力を目的として、毎年開催されています。

今回は本学から加盟館の所属大学学生に対する図書貸出サービスの試行延長の報告とPRの依頼があり

議題に入りました。

「情報リテラシー教育への取り組み」については、各大学でもそれぞれ行われているが、単位認定の授業として実施されているのは本学のみでした。

「寄贈図書・資料等の受入基準」については秋田県立大学が受け入れ基準を策定しており、各大学もこれを参考にして作成を図ることになりました。

「貴重図書コレクション」についてはそれぞれの大学で特色あるものを所蔵しており、今後合同の展示会等の企画も行いたいとの意見がありました。

「加盟間相互協力便覧」については新しく改訂版を作成し、相互協力に役立てることになりました。

議題終了後の懇話会では「セキュリティ対策」、「地域開放の方法、状況、問題点等」、「館内コピー申込書の様式」及び「著作権の周知について」等について活発な質疑応答がなされ、実りある会議になりました。

秋田大学附属図書館自己点検・評価報告書と外部評価の実施について

このたび、附属図書館では、附属図書館評価委員会の各先生方のご尽力により秋田大学附属図書館自己点検・評価報告書をまとめました。

10項目にわたって附属図書館の現状、評価及び課題と対策をまとめたものです。各部局へは、選修、講座及び学科単位でお送りしていますので、是非ご一読願います。

また、附属図書館では、2月20日に、秋田大学附属図書館自己点検・評価報告書に基づき、外部評価(外部委員4名)を受審しました。

当日の講評では、理念・目標、シラバス、ホームページ等評価されたものもあれば、狭隘等、物理的環境の悪さ、学生用図書の更なる充実等、改善を要

するという指摘もありました。



後日、正式の評価がなされてから報告書としてまとめ、選修、講座及び学科単位でお送りしますので同様にご一読願います。

医学部分館コーナー

News

医中誌Webがバージョンアップしました！

医中誌Webのバージョンアップに伴い、検索結果に秋大OPAC（学内蔵書検索）やPubMedへリンクするアイコンが表示されるようになりました。



その他に印刷実行やダウンロードがアイコン表示になったり、クリップボードが新設されるなど、使い勝手が良くなりました。

是非新しいバージョンをお試ください。

医中誌Webとは

日本国内の医学・看護学・保健学関係の雑誌等に掲載された論文に関するデータを検索できるデータベース。

秋大キャンパス内から利用できます。

分館HP(<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>)からどうぞ。

ご存知ですか？ その1

情報検索講習会について

分館では医中誌Web、PubMed、OPAC（学内蔵書検索）などの各種データベース（DB）について、検索方法等の講習会を随時受け付けています。

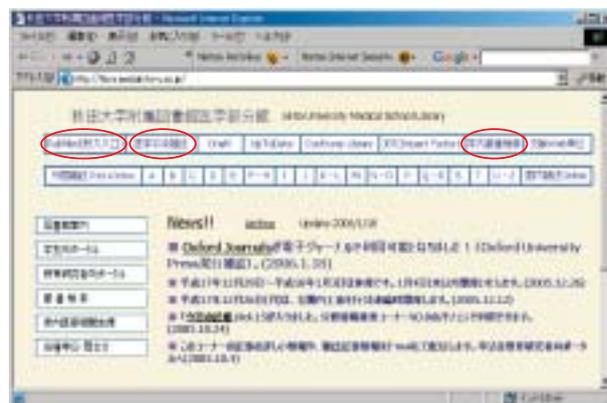
検索方法についてのご質問はカウンターでも対応していますが、グループで受講したい、体系的に学びたいなどという場合に講習会をご利用ください。

1時間程度、最大10人まで参加できます。

ご希望の際は分館HPの**教育研究者向けポータル**または**学生向けポータル**の**情報検索講習会申込**からお申込みください。

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/hpcgi/joho-form/johok.html>

日程の調整等がありますので、余裕を持ってお申込みください。



PubMedとは

世界の医学・生物学分野の雑誌論文等を検索できるDB。

OPAC（学内蔵書検索）とは

本学所蔵の図書・雑誌等が検索できるDB。

ご存知ですか？ その2

視聴覚室の利用について

分館1階に視聴覚室が5部屋あることをご存知ですか。その内の1部屋は数人で一緒に利用することができます。

視聴覚室では分館所蔵のビデオテープ、DVD、CDが視聴できます。（持込は不可）

分館では主に医学・看護学・保健学関係のビデオテープとDVD（約850本（枚））と音楽CD（約230枚）を所蔵していますが、著作権法上、視聴覚室のみでご利用いただいています。

所蔵タイトルのリストは、分館HPおよびカウンターにあります。

<所蔵の一例>

- ・「目で見る医学の基礎」 (全17巻)
- ・「看護のためのアセスメント事例集」 (全12巻)
- ・「NHK驚異の小宇宙・人体」 ~ (全18巻)
- ・「ER：緊急救命室」 ~

ご利用の際は利用者カードまたは学生証をお持ちの上、分館カウンターまでお越しください。

授業の空き時間などを利用して是非ご利用ください。

平成18年度秋田大学附属図書館開館カレンダー

本館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

4/1 前期開始
4/4 春季休業終了

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6/1 開学記念日

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8/5 夏季休業開始

9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9/30 夏季休業終了・前期終了

date 平日 8:30~21:00 date 土曜・日曜・休日 10:00~17:00 date 長期休業期間等 8:30~17:00 date 休館

分館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

4/4 春季休業終了(保健学科)
4/9 春季休業終了(医学科)

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7/22 夏季休業開始(医学科)

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8/5 夏季休業開始(保健学科)
8/27 夏季休業終了(医学科)

9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9/30 夏季休業終了(保健学科)

編集後記

今年ほど春の到来を待ち望んだ年はないのではなからうか。
誰かと会うたびに雪の話。
そんな厳しい冬を見送り、柔らかな日の光を浴びると、何だかやさしい気持ちになってくる。
縮こまっていた体を伸ばし、張り切っていこう。

図書館だより 第62号

2006年4月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会
 発行者 秋田大学附属図書館
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252
 E-mail: 本館 riyo@lib.akita-u.ac.jp
 分館 ibun@lib.akita-u.ac.jp